

# 宮城県石巻市・震災復興学習支援 レポートNo.21・No.22

## 私塾ネット 出前寺子屋 「検定合格講座」

### ◆活動報告その21[2012年6月2日]

2012年6月2日、ついに第Ⅱ期の漢字検定の日を迎えた。この日は漢字検定の実施のみが活動内容とあって、たったひとりの身軽な石巻行きであった。10時35分仙台駅前発石巻行きの高速バスに乗る。この日は土曜日とあって、いつも乗車する日曜日とは雰囲気が違っている。なにしろ込んでいる。補助席を入れて55名の定員だが、りっすいの余地なく満席である。大きなキャリーバッグを引いての乗車なので足元も窮屈で息苦しくもある。ここから1時間15分のバスの旅である。仙台東インターから仙台東部道路に乗る。幸いにも道路はすいており一気に利府JCTから三陸自動車道路に入る。いつもは渋滞が目立つ松島地区も停滞なく過ぎ、ノンストップで石巻河南出口から最初の停車場イオン石巻店に停まる。ここで半数の乗客が下車し、車内はようやく余裕ができ一息つくことができた。

いずれの地方都市でも大型ショッピングモールが郊外に商業拠点を形成している。石巻でもその例にもれず、内陸部のここ河南と海岸部の万石浦の両イオンが、広大な駐車場をそなえ市民の消費欲をおおっている。先の震災では両店ともほぼ無傷であったようだ。一方市内の商店街は2mに達する津波に襲われた。そうでなくともさびれていた商店街は、いっそうシャッター化が進んでしまっている。水産加工業の被害とともに、「海都石巻」経済の壊滅的な現状を象徴している。

いつもの拠点センターの集会所に午後1時前に入る。たったひとりで準備を始めたのだが、さすがにいつもと勝手が違う。そこへ強力な助っ人、佐久間昭一郎さんの登場である。二人してテーブルを引き出し、教室形式で受検場をつくっていく。この日の受検予定者は18名だが、すでに1



平成24年度第1回漢字検定の会場、拠点センター集会所。前方にはテスト監督の佐久間先生。

名の欠席はわかっているので実質17名だ。午後1時30分を過ぎると、続々と受検者が集まってきた。さらにもう一人の支援者木伏良明さんも来られる。午後2時、受検準備がすっかり整ったが、2級受検のTさんが姿を見せず欠席扱いとなった。ここ数回のスクーリングも欠席されていたので、予感ではいたったのだが・・・。

この日の漢検受検の内訳は、2級10名、準2級3名、3級1名、5級1名、6級1名の計16名となった。合否の判明は4週間後のWEB発表だが、次回17日のスクーリングでは自己採点をしていただき、合否の見通しをつかんでいただくことになる。またこの日のスクーリングで私塾ネットの主催活動をいったん終わることになる。その後の経過については後日報告をしたい。



大人と子どもが同じ検定を受ける。これが漢検の面白さ。

き、合否の見通しをつかんでいただくことになる。またこの日のスクーリングで私塾ネットの主催活動をいったん終わることになる。その後の経過については後日報告をしたい。

(報告:谷村志厚)

### ◆活動報告その22[2012年6月9日]

英検本番テストの初実施で、私にとり24回目の石巻となるこの日(6月9日)、天気は雨。そして、同行者には仙台から東北大準教授の村山氏が加わってくれた。この日は、石巻市の全中学が参加する総合体育大会(通称「総体」)が、シトシトと雨が降る中、行われていた。「総体」は各中学校がバスで会場に参集する全市的行事で、出前寺子屋の中学生も選手として、あるいは応援団員として参加をしていた。

したがって、中学生の英検受験は不可能となり、本日は高校生ただ一人が英検を受けることになったのである。宮城県屈指の進学校に在学する本日唯一の受験生は、この日の受験級である準2級ではなく、その上のランク、2級合格が目標である。二次試験を不得手とするこの高校生が本年度中に英検2級の完全合格(二次の英語会話面接も含めての合格)を果たすには、準2級を高得点で合格することが前提条件であろうと私(谷村和枝)は考えた。今回の準2級合格は彼女にとり必須の事柄で、たった1人の受験者でも、英検開催の意味は大きいと私

### 出前寺子屋 in 石巻「検定合格講座」の仕組み

活動期間：第Ⅰ期 2011年8月16日～2012年2月4日

第Ⅱ期 2012年2月19日～6月17日

#### ①スクーリング(漢検・英検学習)

2011年8月16日、9月4日、18日、10月2日、16日、11月5日、20日、12月11日、24日、2012年1月8日、22日、2月4日、19日、3月4日、18日、4月1日、15日、29日、5月13日、27日、6月2日、9日、17日

#### ②会場 仮設開成ささえあい拠点センター集会所

#### ③検定受検

平成24年度第1回漢検2012年6月2日

平成24年度第1回英検2012年6月9日

#### ④受講対象者 仮設住宅、借上げ住宅等に居住する被災市民

#### ⑤受講者特典 教材費・スクーリング受講費・検定料の全額が無料

は考えた。たった1人に向けた支援も意味がある、そのように考え、今回の英検開催をAIMは決めた。この一人受験でも開催、という決定を導く条件を彼女は備えていた。

彼女は女川出身である。10メートルを超える津波を受け、自宅は流失し、今、仮住まいの中で受験勉強に励んでいる。学費の高くない国立大学の合格を目指している。彼女を支援することは、彼女と彼女のファミリーの状況を知った私の使命である、そんな思いを今、抱いている。私のこの気概に彼女は勉強して結果を出すことでこたえ、彼女の母(出前寺子屋在籍中)は誠意に満ちた振る舞いでこたえてくれる。

この日、母は受験生の彼女を、本日の会場である開成仮設団地ささえあい拠点センターへ車で送りにくると、玄関に顔を出し、「先生、さくらマス、召し上がってくれますか?」と言って、氷詰めの鮮魚を置いていったのである。30センチを超える魚が入った箱の上には、ぎっしりと詰まったスジコが2パックおまけでのっていた。「村山先生と分けてください」と母は言い、下の2人の娘が参加している「総体」会場へ戻っていった。熱いものがこみ上げてきた。石巻に通って、1年が過ぎようとしている。続けてきて良かった、と今日はしみじみと感じた。そして、仮設団地が存続する2014年3月末まで、出前寺子屋のプロジェクトを継続しよう、と決意も新たにしたのである。

本日、英検4級の補習講座も参加者2名で開催したが、この詳細は後日報告したいと考えている。

(報告:谷村和枝)



この日英検4級の学習をスタートした、CさんとM君。祖母と孫ほどの年齢差だ。

23年度第2・3回漢字検定合格者40名の内訳  
2級-5名、準2級-12名、3級-12名、4級-4名、5級-3名、  
6級-2名、7級-2名 (小中学生15名、一般25名)

### ご支援ありがとうございます

当活動は支援参加者個人の負担と、ご援助をいただいた皆さんの浄財で運営しております。平成23年10月23日以降平成24年5月27日現在で、18の塾、学校及び団体さんから、総額368,458円の献金をいただきました。ありがとうございます。引き続き応援をお願いします。支援金の使途は、検定料、教材費の直接費用と県内移動交通費、通信費、スタッフ昼食費の間接費用にかぎり計上させていただいています。

2012年5月から、日本基督教団の被災支援ネットワークである「東北ヘルプ」のご支援もいただいています。

主催:全日本私塾教育ネットワーク(略称・私塾ネット)